



9月1日に社長に就任。「私たちのこの業界は、まさしく世界に誇れるもの。これをこまごま築いてきた諸先輩への尊敬の念を禁じ得ません。」

「私たちが仕事に就いて『ここまでいい』と、自ら限界を定めていらないだろうか」と社員に呼びかける。「社長が先頭に立つことは当然だが、社員も受け身にならず、積極的に先頭に立って欲しい」。そのためにも、「自分たちはこうあるべきだ」というビジョンを明確に示していくという。

目下の業界については、「厳しい危機的環境にあります。しかし、これも経営資源に変え、飛躍していかなければいけない。」

「これまで、われわれは長年漏水調査業務に携わってきました。しかし、料金収納や窓口業務は、さらに水道のお客さまの近くで仕事をする事ができ、お客さまの感謝も肌で感じる事ができます。この感謝を大切に、皆さまから当社に業務を委託して良かったといわれるようにしていきたいですね」と目標を強調。

海外でのビジネス経験もある。1989年にベルリンの壁が崩壊したその1カ月後にベルリンを訪れたところ、東ベルリンにはすでに西側企業の見学が立ち並び、観光客で溢れかえっていた光景を見て、あらためて人間のたくましさを感じたという。「このような節目について、本で読むのではなく体験できたことは、大きな経験になりました。」

「昨年から当社が展開している、検針・料金収納から管網維持管理・運転維持管理までを包括的に行う「フジ・アウトソーシング」事業については、「水道のお客さまの『水』に対する要望は年々高まっています。これに対し、われわれは安心

な水の安定な供給に貢献することで、水道のお客さま、水道事業者の皆さまに喜んでいただきたいと考えています。そのため、われわれ携わる者が『水』に対する覚悟を持つことと、業務の品質を高めていくことが必要だと思えます」と想いを話

フジ地中情報社長 杉山 清昭氏

## 変化に備え、変化を起こす

いないというが、「『誠実』が大それたと考えています。これにはいろいろな意味があるかと思えますが、私としては『いつ、誰にでも同じことを話しているか』を誠実であるとして、これを常に自分に問いかけています」という。

また、「仕事だけを見ていても、多角的な判断はできません。そこで、家に帰ったときは『仕事脳』をリセットするようになっています。これまでも、夜よりも朝に思いついたことの方が比較的当たっているように思っています」と。

最後に、「人も会社も『ツイている』というところがありますが、その陰では努力があるものです。さらに、努力を続けていると人間は、ある瞬間には自分が思っている以上のことを成し遂げます。社員皆がこのように小粒でもきちんとした仕事を行うことで、今後とも上下水道事業者の皆さまの要望にも応え、評価を高めていきたいと思えます」と力強く締めくくった。



「水」に対する要望は年々高まっています。これに対し、われわれは安心

な水の安定な供給に貢献することで、水道のお客さま、水道事業者の皆さまに喜んでいただきたいと考えています。そのため、われわれ携わる者が『水』に対する覚悟を持つことと、業務の品質を高めていくことが必要だと思えます」と想いを話

さらに、中国・東南アジアでも経済の奔流を目撃する。定期的に上海を訪れるたび、その変貌ぶりに驚いたそうだ。「今日の常識が明日には変わっているのが当たり前だ」ということを体験でき、個人としてもビジネススマンとしてもよい経験になりました。普段から変化に備えることが、重要なことです」と世界の大舞台での経験を振り返る。

昭和34年生まれのお50歳。